

相手がロシアならマナーの悪さは許される？

——オリンピックを汚す米チーム

【訳者注】これは「ロシアのドーピングに対する暴力的な裁定」と併せて読んでいただきたいが、もちろん独立した論文である。これに対する読者のコメントで特に賛成の多いものを2つだけ、末尾に翻訳して載せた。Information Clearing House の論文で、異常に大きな反響を呼ぶものがあったが、これはその一つである。しかもたいていの場合、反論がいくつか混じるのに、ここには一つもない。今回のオリンピックでの、アメリカ水泳選手のロシア選手への侮辱という、小さいと言え小さい問題だが、いかに多くの人がある意味の大きさに気づいているかがわかる。

我々のこのサイトでも、これまで常にこの問題を共有してきた。すなわち、我々日本人もアメリカ人と全く同様に、メディアを通じて知らぬ間に洗脳を受けているという問題である。「マナーが悪いと言っても相手がロシア選手なら、それは当然の報いで、批判すべきことではないのじゃないの？」——このような反吐の出るような、恥ずかしい論理が、我が国でも暗黙のうちに支配している。

Finian Cunningham

August 15, 2013, Information Clearing House

ロシアの水泳選手ユリア・エフィモワに対する、アメリカのライバルからの公然たる辱めは、醜い、自国のみを正しいとする、アメリカの歪んだ態度を表すものだった。それはまた、共通の人間性を重んずべき運動選手による、ワシントンの好戦的地政学の恥ずかしい表現でもあった。



23 個の金メダル・レコード保持者マイケル・フェルプスに率いられたアメリカ・チームは、確かにリオ・オリンピックにおいて、メダル数で遥かに群を抜くあっぱれな姿を見せた。

しかし、選手たちが、彼らの政府の好戦的な戦争屋愛国主義の意を喜んで受けて、このような卑劣な態度を示すとしたら、その素晴らしいメダルに何の価値があるだろう？

その最もひどい行動が起こったのは、女子 100 メートルの平泳ぎ決勝においてであった。金メダルを取ったのは 19 歳のアメリカ選手 Lilly King で、彼女はロシアの Yulia Efimova に競り勝ち、エフィモワは 2 位の銀メダルに終わった。

キングが、彼女のロシアのライバルの顔に水をぶっかけて無作法に勝利を誇るという行為は、更にその後のメダル授与式で、エフィモワが差し延ばす手を拒否するという行動に現れた。

「彼女は薬物をやってるのよ、これはきれいなスポーツの勝利なのよ」とキングは言い、エフィモワは、過去に薬物違反があるのだから、出場の資格さえないはずだと言った。

https://www.washingtonpost.com/sports/olympics/im-not-this-sweet-little-girl-lilly-king-doping-sheriff-wont-back-down/2016/08/09/088b2eb2-5e4f-11e6-af8e-54aa2e849447_story.html?tid=a_inl

この猛々しいアメリカ選手はなおも引き下がろうとせず、言葉を取り消すことも和解することも拒否した。彼女のチームのメンバーは、伝説的なフェルプスも含めて、キングがエフィモワを公衆の前で辱めたことを支持した。プール観覧席のアメリカのセクションにいたアメリカ人観客さえ、ロシア選手に激しいブーイングを送ってこれに加わり、エフィモワはとうとうある時点で泣き出した。 <http://www.reuters.com/article/us-olympics-rio-swimming-king-phelps-idUSKCN10K0CL>

ロシアの水泳協会総裁ウラジミール・サルニコフは、リオの雰囲気は、米露が互いに相手のゲームをボイコットした 1980 年代の冷戦時代を思わせる、不穏なものだと言った。

<http://www.reuters.com/article/us-olympics-rio-swimming-russia-exclusiv-idUSKCN10K260>

4 回金メダルを取っているサルニコフは、エフィモワに対する敵意は許しがたいものと言った。彼は、米チームの間に名誉の観念がないことを嘆いた。

「エフィモワは非常に厳しい試練をくぐってきた。不信と不安の雰囲気の中で、彼女は非常に強い性格を見せたと思う——不屈の精神と集中力だ。だから彼女は、自分の取ったメダルに十分に値すると思う」と彼はロイター通信に話した。

アメリカのメディアは、一種の道德劇を楽しんでいるようだった。物語の副筋は、まともな、法を守るアメリカ人が、道徳的にも肉体的にも、ろくでなしの、ずるいロシア人に勝った、

というものだった。神は本当に、正しく、模範的な振舞いをする“アメリカを祝福”してくださった。

この好戦的愛国主義の見方では、オリンピック競技は、政治のスポーツによる表現である。アメリカは、彼らによると、ウクライナで国際法に“違反した”ロシアを、経済制裁で処罰するのは正しいことなのだ。ロシアはヨーロッパを“脅かしている”のだから、アメリカがロシア国境に NATO 軍を増強させるのは正しいことなのだ。アメリカがロシア大統領ウラジミール・プーチンを非難するのは正しいことだ——彼は“穏健派反乱軍”と市民を爆撃して、シリアの暴君を助けているのだから。

問題はこれらのすべてが、根拠のない、無謀なプロパガンダだということである——現実を逆にしているとは言わないまでも。

国際オリンピック委員会 (IOC) による、ほぼ 100 名のリオ出場予定のロシア選手——全チームの 3 分の 1——に対する出場禁止も、同じプロパガンダの力学に従っている。ロシアの“国家スポンサーによる”ドーピングという大言壮語の主張は、どんな法的な証拠の基準をも満たしていない。それはすべて、他の地政学的主張と同じように、風聞と、その西側のメディアによる増幅に基づいている。

この渦巻の中に、24 歳のユリア・エフィモワが引き込まれた。他の選手たちも一緒になって、こういう悪意ある言葉で彼女を激しく攻撃するという光景は、見ていて情けなくなる。

いくつかの事実を、ここではっきりさせておこう。エフィモワはアメリカに住み、数年間アメリカで訓練してきた。“ロシアの国家主導によるドーピング”という主張は、それだけでも崩れる。

彼女は 2013 年に、アナボリック・ステロイド DHEA の痕跡のためにテスト結果が陽性とされた後、出場を禁止された。しかしその禁止期間は、法に定める 2 年から 16 か月に軽減された。その理由は、彼女の申し立てが受け入れられ、彼女が摂っていた食物サプリメントが、禁止されているホルモン物質の痕跡を含んでいたことを、知らなかったことがわかったからだった。

その後、今年初め、エフィモワは、彼女の心臓のために **Meldonium** を投与されていたために、陽性と判断された。これはロシアのテニス女王マリア・シャラポワや、他の何人かの選手が引っかけたのと同じ薬品である。問題は、メルドニウムが成績改善のドラッグとして、今年 1 月に、差し止めリストに入ったばかりの時に起こった。心臓を守る投薬として普通

に使われているものだが、エフィモワとかシャラポワのような多くの選手たちが、禁止が導入されたあとも、まだ体の中にその痕跡が残っていることがわかった。

リオの競技が開く 3 日前に、エフィモワの訴えは、ジュネーブにある「スポーツ調停裁判所」(CAS) によって受け入れられ、彼女は競技をするのに「クリア」(差し支えなし) として再確認された。したがって、最高のスポーツ控訴裁判所が、このロシの選手を、オリンピック参加に問題なしと判断したことになる。

このことから、アメリカ人たちの彼女に対する排斥行為は、スポーツ精神に反するだけでなく、法的にも違法であることになる。

100 メートル平泳ぎファイナルから数日後に、エフィモワは、200 メートル競技で続けて銀メダルを取った。彼女のアメリカのライバル、リリー・キングは、その決勝に予選落ちした。

エフィモワははっきりと、自分はスポーツでのドーピングには反対だと言っている。「誰だって 2 度目のチャンスの資格はあります」と彼女は言った。そういう感情を退けることは難しい。スポーツばかりでなく、人生一般において、確かに誰でも、名誉を挽回する機会を与えられるべきである。

例えば、今週のリオにおいて、アメリカの水泳選手 **Anthony Ervin** が勝利して、“カムバック・キング” と異名を取ったことを考えてみるがよい。彼は男子 50 メートル・フリースタイルで、金メダルを取った。35 歳で、彼は最高メダルを得た最高齢の水泳選手になった。

もっと注目すべきは、アーヴィンの名誉挽回の個人的物語である。16 年前、このカリフォルニアの男は 19 歳にして、シドニー・オリンピックで金メダルを取った。その 3 年後に、彼の生活は精神的な鬱状態と、ドラッグやアルコール乱用の深淵に落ち込んだ。長い期間、このオリンピックの英雄はホームレスで、人にも知られず、LSD をやっていた。

それから、どうしてか、彼は自分の悪魔を克服し、生活をすっかり切り替えた。プールとは縁を切っていた何年か後に、彼はトレーニングを再開した。今週になって彼はオリンピックへの復帰を果たし、しかも 2 つ目の金メダルを得た。彼は 2004 年に、最初の金メダルをオークションにかけて手放し、その年のアジアの津波被災者を援助したと言われる。

ロシアのエフィモワ選手の言葉を再び引用すると、「誰だってやり直す資格がある」。素晴らしい言葉だ！

確かに、スポーツという高貴な芸術は、敗北と勝利、偉大な人間の苦闘、忍耐、信念にかかわるものである。そしてそれらの努力の中に、我々は共通の人間性を見、それを分け合う。

現在の競技について胸を痛める残念なことは、共通の人間性が、型通りに切り取られ、ロシアを悪魔化し泥を塗ろうとするワシントンの政治的アジェンダに、合わせられているということである。このアジェンダは戦争準備の太鼓の音にはかならない。それは非難すべき犯罪的なものである。

同様に残念なのは、偉大な男女スポーツマンの中には、この好戦的愛国主義の太鼓に、調子を合わせる人たちがいるということである。

アメリカ・チームが、ユーリ・エフィモワを公衆の前で引き裂こうとしたことは、戦争屋どもが——冷戦が終わったと考えられた 25 年後に——オリンピックを汚そうとしていた嫌悪すべき証拠である。

リリー・キング、マイケル・フェルプス、その他の者たちは、もし通常の、友好的な米露関係が存在していたら、このような恐ろしいやり方で、エフィモワを脅迫しただろうか？ アメリカ・チームは、なぜ、ドーピングにかかわっている他の国の選手たちを同時になじることによって、辻褄の合う正義の訴えをしなかったのだろうか？

スポーツの威信の頂点にあるものは、金属の物体ではない。それは人間精神の中にある、遙かにより永続する何ものかである。アメリカ・チーム——少なくともその水泳チーム——は、ゴングの響きを勝ち得たかもしれない。しかし威厳と人間性において、彼らはぶざまな敗者の姿を見せつけた。

[読者のコメントから 2 例]

●彼らは支払われていた、と考えるほかないのではないか？

それでも間違えてはいけない。彼らの中には、アメリカ・チームの本当に恥ずべき振舞と、多くの者の示した（ようにみえる）精神的レベルの低さを嘆き、すごく恥ずかしい思いをした、本当のスポーツマンやウーマンが沢山いるであろう。「リオ・オリンピック 2016」が、将来ずっと思い出のタネになり、また急速に広がるであろう、3 つの非常に不愉快なアメリカの記憶をもつであろうことは、悲しいことである——

アメリカによるロシア選手像のでっち上げ——

アメリカによるジルマ・ルセフ（ブラジル）大統領像のでっち上げ――

アメリカ・チームの多くのメンバーのショッキングな、無作法な振舞い――

いやいや、悲しいことに、アメリカは、かつて持っていた、よい評判を落とす決意をしているように思える。オリンピック委員会が、これほど明らかにスポーツマンシップを欠くだけでなく、繊細さも洗練された態度も持たない者たちに対して、断固行動を取る勇気をもたないということは、悲しく、かつ現実に悲劇である。

ロシアもまたここから背を向けて去っていこう。なぜなら、ロシア人の心は、他者をけなし軽蔑することに喜びを見出したためしはないからだ。むしろ彼らは、心の温かさと誠実さ、寛大な精神、人のために立ち上がることで知られる国民である。…アメリカ人もかつてはそうだったのに不思議なことだ…

アメリカ・チームよ、恥を知れ。君たちは同じチーム仲間を貶めただけではない。ロシア・チームの狭量な扱い方によって、それ以上に自分の国を潰そうとしているのだ。

ゴー、ロシア人、ゴー！ 世界の心ある人々はあなた方の後ろについていて、あなた方を誇りに思っている。あなた方すべてに神の祝福あれ！

ところでフィンランに感謝する。あなたは、もはやアメリカのいわゆる指導者を、頼ることも信ずることもできなくなった世界で、正義と公平のために立ち上がってくれた。彼らはいまや、彼らの愚民化された人民の大多数を、完全に洗脳することに成功したようだ。彼らは自分たちの情けない政府が、彼らの名において、どんな悪事を犯そうとしているのか、全くわからないでいる。

●間違っていたら誰か教えてほしいのだが、私の理解では、悪名高い 1936 年のベルリン・オリンピックで、ナチスは決してこんなふうには振舞わなかった。私は、ナチスが他国を侵略し、占領し、拷問し、暗殺し、虐殺し、爆撃し、監視する警察国家を作って、果てしないプロパガンダでこれを強化し、西洋の同盟国が決してやろうとしなかったロシア侵略を試みたことを知っている。しかし少なくとも彼らは、彼らのオリンピックの間には、無作法なこととはしなかった。